

未来の熊谷を担う子どもたちの視点を市政に生かす 第7回 夢・未来熊谷ジュニア議会が開催されました



11月14日、熊谷市議会本会議場で、第7回夢・未来熊谷ジュニア議会が開催されました。市内の16の中学校から代表として選ばれたジュニア議員が、市政について感じていること、疑問に思っていることを、堂々とした態度で質問を行い、市長をはじめ、副市長、教育長、担当部長、消防長が答弁しました。
◆広報広聴課 ☎内線 206

Q コミュニティひろばにできる北部地域振興交流拠点施設について教えてください。

これまで県との共同事業として検討してきました。県が整備する施設は、次世代自動車の開発や再生可能エネルギーなどに取り組み中小企業を支援する「次世代産業支援施設」や、「県立図書館」の導入を想定しています。市が整備する施設は、「文化、市民活動支援施設」として、老朽化した中央公民館と、市民活動支援センター、国際交流協会を、「地域産業振興支援施設」として、現在の商工会館機能や観光協会を「にぎわい施設」として、祭り資料館などを想定した郷土館や、民間にぎわい施設の導入を検討しています。将来の熊谷市の中核的・シンボリックな施設となるよう計画していますので、応援してください。



Q ラグビータウン熊谷をもっとよく知ってもらうために何をしたらよいでしょうか。

市は、「実践「応援」協力を合言葉に、スポーツ熱中都市を宣言して、スポーツの振興に努めています。なかでも、ラグビーは、第22回国民体育大会の競技会場となつて以来、埼玉県のラグビーの中心として発展してきました。平成3年には、国内屈指の規模を持つ熊谷ラグビー場が完成し、全国高校選抜ラグビー大会をはじめ多くの試合が開催されています。また、「ラグビー教室」は、40年以上も続いていて、小さい頃からラグビーに親しむ環境



ワークショップ

本議会の準備段階として、ジュニア議員同士の交流と市政への理解を深めてもらうため、夏休みにワークショップを2回開催し、自己・学校紹介、グループ討論や市職員を講師にしての学習会を行いました。活発に意見を出し合い、学校間の交流や仲間との情報交換もできました。

ワークショップを行い議会を開催する方法は、全国的にも珍しく、子ども・若者の意見聴取等を行う取組みとして有効な事例であると、内閣府の子ども・若者育成支援推進点検・評価会議から高い評価を受けました。



をつくるなど、市民へのラグビーの浸透を図ってきました。今後、更に盛り上げるには、「ラグビーチームを増やす」、「市民皆さんが誇りを持って応援できるチームがある」ことなどが必要になります。また、ラグビーワールドカップの試合を熊谷で開催することは、ラグビータウン熊谷を世界に向けて発信することや、ラグビーの普及にも絶好の機会になりますので、市民皆さんのご協力をいただきながら、招致活動に取り組んで行きたいと思っております。

Q 国宝指定された聖天山に若い観光客が増えるような取組みや対策などはありますか。



平成24年7月に国宝に指定された歓喜院聖天山には、

新聞やテレビ等での報道以来、大勢の方々が見学に訪れています。歓喜院の国宝指定を活かし、若い世代の観光客をはじめ、多くの方に熊谷の魅力を広く知ってもらいたい。熊谷市観光協会では観光情報誌として知名度の高い「るるぶ」の熊谷版を発行しました。

この「るるぶ熊谷」は、市内公共施設をはじめ、JR高崎線の各駅・高速道路サービスエリアなど、市外の施設にも広く配布しています。聖天山は、縁結びの神様としても有名で、家内安全、商売繁盛、学業進歩などあらゆる縁結びに御利益があるとされています。

縁結びと聖天山周辺のイベント、グルメといった地域の魅力を結びつけ、広く宣伝することにより、若い世代の方はもちろん幅広い年齢層の観光客誘致に努めていきたいと考えています。

Q 市ではどのような考えで小・中学校にエアコンを設置したのですか。

小・中学校のエアコンは、日本最高気温40.9度を観測した本市で、児童・生徒の皆さんを熱中症等の危険から



守り、快適な環境で学習に取り組んでいただくために設置しました。各学校に行ったアンケートの結果では、「教室が涼しいので、外で思い切り汗をかけるようになった」、「外の活動後にすぐにクールダウンできて、授業に集中できる」、「暑さで体調を崩すことが減った」、「給食がおいしく食べられるようになった」などの意見が多数寄せられたことから、エアコンの設置効果は非常に大きいものと考えています。これからは、教室を冷やしすぎないよう、皆さんの健康を第一に考え、扇風機や、みどりのカーテンなど、エアコン以外の暑さ対策を組み合わせながら、節電と快適な学習環境とを両立していきたいと考えています。

このほかにも貴重なご意見をいただきました。これからの市政運営の参考にさせていただきます。

ジュニア議員名簿（敬称略）

学校名	議員氏名
荒川中学校	田中涼太
富士見中学校	堀越秀人
大原中学校	周東真司
熊谷東中学校	間瀬湧平
玉井中学校	土屋真志
大麻生中学校	三村健人
中条中学校	渡邊澤樹
吉岡中学校	青木未希
別府中学校	反町亮徳
三尻中学校	小久保日奈子
奈良中学校	森 隆浩
大幡中学校	中島 麗
大里中学校	武田拓己
妻沼東中学校	小池美花
妻沼西中学校	田部井大和
江南中学校	谷津絵里
	三浦大輔
	風間妃奈乃
	新井 健
	鈴木梨央

ジュニア議員の感想

市への取組みや施設について理解が深まりました。
ワークショップではたくさんの方々ができて、議会本番も安心して取り組みました。
市長さん達が一人一人の顔をみて答弁してくれたので嬉しかったです。
議会の体験を通して、熊谷市をより良い方向へもって行きたいと思いました。
議会のしくみも分かり、とても良い体験になりました。参加できてよかったです。
将来のことを考える手がかりになりました。
答弁は分かりやすく具体的に説明していただいたので納得できました。



熊谷駅東口を光が彩る
11月17日、熊谷駅東口で今年もウインタイルミネーションの点灯式が行われました。幻想的な光のもと、ミニコンサートも行われ、行きゆく人の心を癒しました。

トライ目指して全力疾走!

11月24日、熊谷ラグビー場B・Cグラウンドにて第6回ガールズラグビーフェスティバル開催されました。市外からも多くのチームが訪れ、トライを目指してグラウンドを縦横無尽に駆けめぐりました。



**シルバーの皆々で
落葉を一掃!**

11月17日、早朝から、シルバー人材センター妻沼地区の会員さんが地域貢献事業として聖天山の落葉清掃を行いました。各事務所でも同様の活動を行っています。



くまこう時に備えて

11月11日、消防本部庁舎にて第13回消防フェアが開催されました。消防音楽隊ミニコンサートやはしご車搭乗体験の他、消火器での初期消火体験もあり、家族で真剣に取り組んでいる姿が見られました。



みんなで交流、世界は一つ

11月18日、商工会館大ホールにて国際交流パーティーが開催され、14か国・地域の方が集まり交流を深めました。



家族・地域のきずな

11月18日、中央公園にてくまがやまちの灯りが開催され、家族で製作した多くのダンボールハウスに、一斉にあかりが灯り、家族・地域のきずなを感じられる幻想的な夜になりました。



笑顔があふれる親子交流

11月15日、第4回くまSUNフェスタが熊谷スポーツ文化公園くまがやドーム内体育館にて開催されました。多くの親子連れで賑わい、ステージライブやふわふわドームなどのアトラクションは、大人気でした。館内は笑顔であふれ、親子の交流を楽しみました。



登山家 竹内洋岳氏が講演

11月24日、立正大学公開講座が熊谷キャンパスにて開催されました。会場を埋め尽くした多くの参加者が、日本人初8千m峰14座すべてを登頂した同大学OBのプロ登山家竹内洋岳氏の話に魅了されました。



今年も盛況! 産業祭

11月17日・18日の二日間、熊谷スポーツ文化公園にて産業祭が行われました。農産物や絶品グルメなどの出店ブースが数多く並び、多くの人で賑わいました。



**パトカー、白バイに
大興奮**

11月17日、くまがや交通安全フェアが熊谷スポーツ文化公園にて開催されました。パトカーや白バイの展示、自転車シミュレーター体験などを通して子どもから高齢者までが交通安全を学びました。



**読んで当てよう
市報クイズ**



今月の問題
次の□に入ることばを、それぞれお答えください。
①第7回□・未来熊谷ジュニア議会が開催されました。
②公共施設自動予約システムを□しました。

今月のプレゼント
A.L.F.(エー.エル.エフ)Coffee Standご提供の、好きなドリンク1杯を、正解者の中から抽選で20人に差し上げます。
所在地:本町2-41 電話:048-526-1155、090-4713-0261
※車で越越しの際は近隣の有料駐車場などをご利用ください。

応募方法
ハガキまたはEメールに、クイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・今月のテーマ「あなたの防災対策」のコメントを必ず記入し、1月23日(水)までにご応募ください(一人につき一通)。
※コメントがないものは無効となります。
《応募先》〒360-8601 宮町二丁目47番地1 熊谷市広報広聴課
☐ kohokocho@city.kumagaya.lg.jp
※なお、市内の商店・企業を知っていただくという趣旨で、当選者には月末頃にプレゼント引換券をお送りしますので、お店でご使用ください。当選者の発表は、プレゼント引換券の発送をもって代えさせていただきます。

11月号の正解
①11 ②地産地消 ◆応募総数64通中、正解58通

今月のテーマ「あなたの防災対策」にいただいたコメントは、「おたよりパレット」や市ホームページで紹介させていただく場合があります。

市報クイズ11月号で寄せられたご意見を紹介します。

おたよりパレット
テーマ
「あなたの好きな鍋料理」

各家庭によっていろいろ工夫された味があがるようですね。身も心も元気になる鍋料理を食べ、寒い冬を乗り切りましょう!
※おたよりパレットは、市ホームページでも更詳しく紹介しています▶http://www.city.kumagaya.lg.jp/

- 豆乳鍋。最初は湯葉を作ってポン酢で楽しめます。その後、だしとお野菜を入れ、めはおうどんとキムチ!一度で三度おいしい。最高です!(20代・女性)
- トマト鍋です。オリーブオイルでんにく(お好みで鷹の爪)、トマト缶を炒め、水とコンソメを加えスープを作ります。具は、キャベツ・玉葱・ウィンナー・海老がお薦めです。めは、シュレッドチーズを加え、リゾットかパスタに…つい食べ過ぎてしまいます。(40代・女性)
- 熊谷の野菜たっぷり豚のしゃぶしゃぶ鍋です。トロ芋すってスプーンで入れると旨いよ!(60代・女性)
- 我が家は、私が味噌派で妻がキムチ派で意見が別れるので1回ずつケンカしないように考えています。どっちにしても鍋料理は冬の定番料理です。(50代・男性)
- 我が家では、夫の給料日やちょっとしたお祝い事の時など、いつもより少し奮発して焼き魚をします。家族と囲む、そんな鍋料理が身も心も温かくしてくれます。ささやかな幸せですが、私はそんな鍋料理が大好きです。(30代・女性)



世界ジュニア選手権競技中の八木さん(左)

情熱世代

夢追い人

確かな歩みでリオを目指す
世界ジュニア選手権(バルセロナ)
女子 10,000メートル競歩 8位入賞

八木 望さん

(熊谷女子高校陸上部在籍・オリンピック育成選手)

陸上の強豪 「熊谷女子高校」へ

中学の部活で陸上部を選んだのが競技生活の始まりです。体を動かすのが好きなので、最初から運動部を希望していました。



るぞ」と言われ、その気になったのかもしれない。2月にはジュニア選抜女子5km競歩大会で、初めて日本一に

なり、3年生5月の日本ジュニア陸上競技選手権大会の優勝で世界への切符を手に入れました。熊谷女子高校の校内には、世界の舞台で活躍してきた先輩たちの写真が飾られています。世界ジュニア選手権のスタートに立ったとき、入学前から憧れていた先輩達と同じ場所にいられた喜びが私を包み込みました。

夢が目標になった

もついでいき、3,000mで関東高校陸上選手権に出場できるまでになりました。

開花する才能、競歩への挑戦

それまでは長距離走を専門としていたのですが、高校2年の関東大会の後、競歩にも挑戦することを勧められました。競歩はフォームを判定されるため、体力だけでなく技術も強く求められます。辛いときに冷静な判断力を問われるのですが、そこが醍醐味でもあります。最初は戸惑いでしたが、練習を重ね、2年生秋の新人戦関東大会を好記録で優勝することができました。この時、恩師から「世界ジュニアを狙え

世界の強豪たちと競い、日の丸を背負う喜びや誇りを感じ、同時に自分の力が世界でも通用すると確信しました。今まで「夢」であったオリンピック出場が「目標」に変わった瞬間です。現在は熊谷スポーツ文化公園で練習を行っています。よく市民ランナーの皆さんから声をかけていただくのが力になっています。目下の目標は学業と競技の両立です。学業を疎かにすることなく、リオデジャネイロ五輪を目指して頑張りますので、皆さんの応援をよろしくお願いいたします。

RUGBY WORLD CUP

2019年にラグビーワールドカップが日本にやってくる！

第8回

(C)2011,JRFU(photo by H.Nagaoka)

今回は、ラグビーのほか日本スポーツ界の要職を務められている勝田隆氏に執筆頂きました。

新たなレガシー (Legacy) に期待

「熊谷ラグビースクール」は、第22回国民体育大会ラグビー競技会(1967年埼玉国体)が熊谷市で開催されたことを記念して設立された。私は1969年、小学校6年のときに、このスクールに入校した。以後、今日に至るまで、ラグビーは私の人生の多くの部分を占めている。つまり、「埼玉国体」というビッグイベントの熊谷市開催は、私の人生に大きな影響を与えたことになる。

熊谷ラグビースクールもそしてラグビータウン熊谷も、ビッグイベントの開催に関わった人々の知恵と熱を糧にそのレガシー(遺産)のひとつとして生まれ、歴史を刻みながら受け継がれ、今では日本ラグビーの発展をも支える大きな力となっている。熊谷ラグビースクールの卒業

生である私は、このレガシーの恩恵に浴したという誇りを強く胸に抱いている者の一人である。

そのレガシーを半世紀近くに亘って、守り、育て、そしてさまざまなカタチで発展させてきたラグビータウン熊谷が、「ラグビーワールドカップ2019 日本大会」の開催地に名乗りを上げた。

レガシーとは、街や人が歩んできた道のりに産み落とされ、受け継がれてゆくものだ。それは、街や人の強い思いが込められていればいほど大きく尊いものとなり、人々に希望や力を与える。この力は新たなチャレンジを前進させ、さらに偉大なレガシーを産み出す。熊谷市の世界的イベント招致というチャレンジは、私たちにどんな新しい景色を見せてくれるのだろうか。熊谷市に育てられた私も、そのチャレンジに小さくとも力を与えられたらと想いこの原稿の筆をとった。(次号につづく) 【次回は2月号に掲載します】

勝田 隆

熊谷工業高校卒業後、筑波大学に進学。現役時代はスクラムハーフとして活躍。

仙台大学教授、筑波大学客員教授、日本ラグビーフットボール協会理事、ラグビーワールドカップ2019組織委員会評議員、日本オリンピック委員会選手強化本部長幹事委員、日本体育協会理事ほか



◆ラグビーワールドカップ招致室 ☎内線520

人口と世帯

●平成24年12月1日現在(対前月比)

■人口 203,531人(-193) 男 101,537人(-128) 女 101,994人(-65) ■世帯 82,365(-61)

「市報くまがや」1月号は、72,300部作成し、広告料収入を差し引いた印刷・製本にかかる市の負担は、1部当たり14円です。

「市報くまがや」は、再生紙を使用しています。

発行日 平成25年1月1日 ●発行 熊谷市
編集 広報広聴課 〒360-0860 熊谷市宮町二丁目47番地1
TEL 048-524-1111(内線2006) FAX 048-520-2870

「市報くまがや」は、毎月1日原則に発行し、自治会を通してお届けします。また、市役所・行政センター!出張所・公民館・駅連絡所などでもお配りしています。インターネットでも市報くまがやをご覧いただけます。(URL) http://www.city.kumagaya.lg.jp/